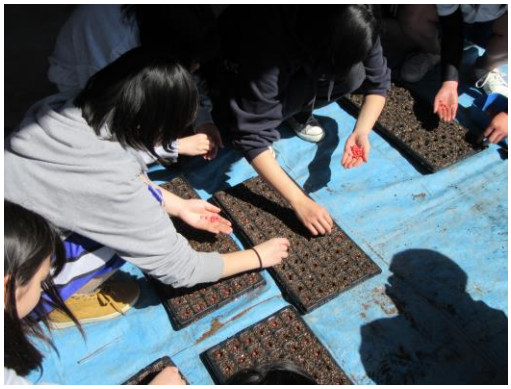
平成 28 年

３月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課（農業革新支援センター）の取組～



岐阜県農政部農業経営課

平成２８年３月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

岐阜農林■アスパラガス　羽島市アスパラガス産地拡大プロジェクトチーム会議を開催

３月 18 日に、第１回羽島市アスパラガス産地拡大プロジェクトチーム会議を開催した。今年度のアスパラガス産地戦略会議でまとめた産地振興プロジェクトの項目について、平成 28 年度のアスパラガス産地拡大に向けた活動内容を各関係機関から発表してもらい、今後の取り組みなどの検討を行った。

会議終了後には、春芽を収穫中のハウスを視察し、収穫・出荷状況を確認した。また、今年度導入したアスパラガス専用の選別機の使用方法や性能なども確認した。

農業普及課では、今後も精力的に産地振興を進めるための産地拡大プロジェクトチーム活動を活発化させ、進捗状況の確認や目標達成に向けた進行管理などを支援していく予定である。

【ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾁｰﾑ会議の様子】

西濃農林■ブロッコリー　売上目標五千万円達成

27年産ブロッコリーは、３月11日に出荷終了した。11月から1月上旬まで温暖な気候が続いたことより、ブロッコリーの生育は前進化し、全品種において計画よりも早い出荷となった。
最終出荷量は38,232ケース（前年比120%）、販売額50,889千円（前年比119%）と前年より増収・増益となり、目標金額五千万円を達成した。営農組織での栽培面積が増加したこと、また、品種の切り替わりの進展と肥料改善等により出荷率が向上したことが増収の要因と思われる。今後の課題として、輸送中の品質劣化防止対策を行う等、産地ブランドの向上を行い、契約栽培の維持支援に取り組んでいく。

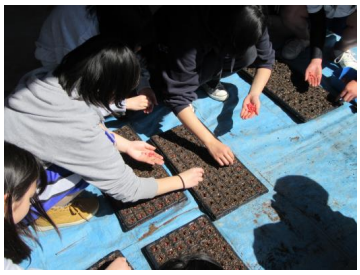
【26 年から導入された品種】

下呂農林■スイートコーン　地元高校生が種まき等の農作業を体験

３月 29 日、益田清風高校の生徒が下呂市スイートコーン研究会会員（萩原町）のほ場にてスイートコーンの種まきやほ場の準備等を行った。

この取組は農業体験の一環として昨年から行っているものであり、今後は、収穫物を地元朝市で販売するほか、コーンポタージュなどに加工する計画をしている。

農業普及課では栽培方法や加工について助言を行っていく。



【種まきの様子】

売れる農畜産物づくり

郡上農林■だいこん　産地の１０年後の姿について話し合い（プロジェクト会議１回目）

３月15日、ＪＡめぐみの高鷲支店にて、ひるがの高原だいこん生産出荷組合「産地推進プロジェクト」の第１回目会議が開催され、組合員及び関係者20名が出席した。当プロジェクトは今後組合員数や栽培面積の減少が懸念される中、将来の産地規模の維持拡大をどう図っていくか、その具体策を検討・実行することを目的として立ち上げられた。

第１回目は、産地の将来像を捉えるべく、組合員一人一人から自分

【会議の様子】

自身の 10 年後の経営ビジョンについて発表していただいた。10 年後自分の両親は労力として期待できないという意見が多く、課題としては「雇用確保の方法」「共同経営推進による効率化」が挙げられた。

次回以降、課題解決のための具体策を詰めていくことになる。農業普及課ではプロジェクト活動がスムーズに展開されるよう支援を継続していく。

農業経営課■畜産（飛騨牛）　益田肉牛部会・下呂市和牛青年部合同研修会を開催

3月23日（水）下呂市ふれあいセンターにおいて益田肉牛部会と下呂市和牛青年部主催の肥育育成技術研修会が開催され、和牛農家等22名が参加した。研修会では農業経営課の革新支援専門員が「子牛～肥育前期の牛づくり」と題して発育の良い子牛を育成するための技術について講演した。全国的な和牛農家の減少により子牛市場価格が至上最高となる中、肥育農家の収益確保のために肥育牛の重量を大きくすることが課題となっており、講演後の意見交換会では牛へのタンパク質給与方法等について熱心な質疑応答が交わされた。農業経営課では各種研修会や巡回指導等を通じて和牛飼育に関する科学的な知識技術を普及し、健康でおいしい飛騨牛の生産を推進する計画としている。

【肥育育成技術研修会】

戦略的な流通・販売

東濃農林■多治見市　多治見の農産物のブランド化に向けて

多治見市廿原町を拠点に活動する「㈱もみじかえで研究所」は、「多治見三郷活性協議会」とともに（有）草場企画の協力のもと、東京南青山のフレンチ「ランベリー」で「もみじとフレンチのコラボレーションの会」を開催した。フレンチ・イタリアン・和食のシェフら約 20 名を招待し、地元からは多治見市長、もみじかえで研究所・三郷活性協議会長らが出席し、フレンチとともに多治見のもみじ食材紹介と情報交換行った。

【もみじとフレンチコラボの会の模様】

もみじは三郷活性協議会で実施したシェフヒアリングで高い評価を得ており、今回、多治見の生産現場にも足を運ばれ絶賛されたシェフの手による、もみじや試作中のマイクロ野菜を用いた渾身の作品が並んだ。参加の各シェフらからは「もみじを食す」と聞き興味深々で参加したが、本当に色鮮やかで様々な可能性を感じたという意見が多く、またマイクロ野菜の引き合いも多かった。

農業普及課では、多治見三郷活性協議会の地域ビジョンづくり、新規農産物の生産・試作に関わっており、今回も協力していく。新年度は地域ビジョンを順次実行に移すとともに、これらプレミアム農産物の生産確立を支援する。

多様な担い手育成・確保

中濃農林■土地利用型経営体　集落営農組合設立総会

３月 29 日、関市洞戸地区で水稲を主体とした「ほらど集落営農組合」（神山博和組合長）の設立総会が開催された。組合員 12 名で水稲約５ha から生産を開始し、今後は法人化も視野に入れて活動していく。

洞戸地区はこれまでにも鳥獣害対策のための防護柵設置など地域活動を精力的に行っていたが、地域の水田農業を今後も維持させるため、地元の担い手リーダーがけん引役となり、

【設立総会後】

関市役所、ＪＡ・農林事務所の関係機関と洞戸地区集落営農組織設立検討委員とで設立に向けて検討会を重ね、地域の合意形成を図ってきた。
　中山間地域では農業の担い手不足や耕作放棄地、鳥獣被害など課題が多い。農業普及課ではこうした地域での集落営農組織の設立や既存組織の法人化支援を関係機関と連携しながら、地元の意向を踏まえつつ今後も支援活動を行っていく。

恵那農林■東美濃夏秋トマト生産協議会　「アグリチャレンジフェア」での担い手確保活動

　農業普及課では、２月 28 日に、岐阜市のふれあい福寿会館での「ぎふアグリチャレンジフェア」、３月６日には名古屋市の名古屋ルーセントタワーでの「アグリチャレンジフェア in 名古屋」に出展し、ＪＡ担当者とともに来場者の相談に対応した。
　隣接会場で「移住フェア」に出展中の中津川市、恵那市の担当者とも連携した結果、両日で４組の相談者があり、地域の気候風土、夏秋トマトを中心とした産地を紹介し、就農を目指す場合の支援体制についても説明するとともに平成 28 年度も引き続き開催予定の「夏秋トマト・なすチャレンジ塾」への参加を呼びかけた。
　また、平成 29 年度に新たに開設予定の「ひがしみの夏秋トマト研修農場（仮称）」も紹介し、県の新たな担い手確保対策をＰＲした。
　今後も、同様な機会を積極的に活用し、新規就農希望者の参加増に向けて、関係者と連携した取り組みを継続する。

【相談者への対応】

飛騨農林■新規就農者　飛騨地域トマト研修所～28年産の栽培がスタート～

　平成27年４月に、ＪＡひだが開設した飛騨地域トマト研修所では、平成29年の就農を目指す１期生３人が２年目の実習をスタートさせた。実習は雪を解かし、ビニールを被覆するところから始まり、３月９日からは28年産トマトの播種を行った。品種は「桃太郎エイト（台木：がんばる根）」と「結夏（台木：バックアタック）で、育苗専用培土を詰めた200穴のセルトレイに１粒ずつ種をまいた。播種後は、１か月程度育苗し、４月上旬に接ぎ木を行う。
　飛騨農林事務所では、担当の普及指導員が研修指導に当たっている。来たる４月には２期生が加わり、賑やかになる予定である。

【播種作業を行う研修生】

県民みんなで育む農業・農村

揖斐農林■ＪＡ、揖斐郡３町との連携　「地域農業連携会議」を開催

～関係機関で次年度計画を検討～

　農業普及課では、農村地域や農業生産等の課題を設定し、農業者や関係機関とともに課題解決に取り組むため、年度ごとに「普及指導計画」を策定している。2 月 25 日～3 月 1 日には、町の農務関係課、ＪＡと次年度計画について機関ごとに打ち合わせを行った。
　農業普及課から、県が５年間に重点的に取り組むことを示した「新たなぎふ農業・農村基本計画」に基づき整理した「普及指導計画」の課題や具体的な取り組み内容、目標等を説明、各機関も次年度事業について情報提供してもらい意見交換を行った。今後も農業普及課は、関係機関と連携し揖斐地域に即した普及活動を展開する。

【ＪＡとの打ち合わせの様子】

可茂農林■普及活動成果報告　**「明日の可茂農業を考える会」に多くの農業者が参加**

【活動成果を発表する普及員】

農業普及課は３月２日に可児市文化創造センターにて「明日の可茂農業を考える会」を開催した。この考える会は、管内の農業者と関係機関が事例発表を通して見識を深めるとともに、これからの地域農業の発展に向けた取組みに繋げていくことを目的としたものである。

今回は、地域を元気にする担い手づくりをテーマとして、農業普及課から「みのかもファーマーズ倶楽部への活動支援」について普及活動報告を行うとともに、可茂地区指導農業士会長から「全国農業担い手サミット in ぎふに向けた活動」について現地事例情報の提供を行った。そして、ジャーナリスト大江正章氏より「地域を元気にする担い手づくり」と題した講演を行った。

当日は農業者の他、地元県議会議員、市町村職員、JA 営農指導員など 117 名が参加し、３つの発表から地域農業活性化への糸口を探そうと真剣に聞き入っていた。